

救援から帰岡の田中医師訴え

ピナトゥボ(フィリピン)避難民支援を



フィリピンのルソン島中央部にあるピナトゥボ火山が噴火、多数の死傷者を出して三月、岡山中植津に本部を置くアジア医師連絡協議会(A.M.D.A、菅波茂会長、メンバーの医師田中政安さん)は、現地でも救援活動を続けている同協議会フィリピンメンバーの田中医師

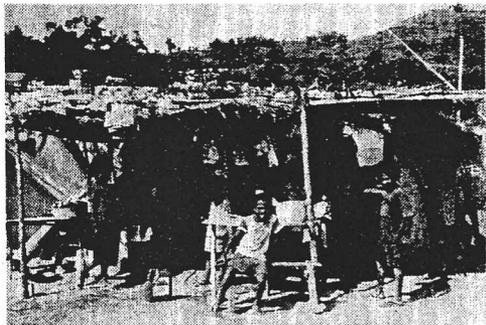


田中医師

援要請にこたえられないほど、被災地を視察、帰国した田中さんは「被災者はキャンプ生活を余儀なくされ、今後長期改善される見通しはない。医療や生活指導の援助が必要で、人的・物的の支援に協力してほしい」と呼び掛けている。

田中さんが訪れたのは、ピナトゥボ火山の噴火で被害を受けた周辺。十一月一日から二週間、イラム、ヒタルタカンの二カ所を診療行為をしたほか、カワグ、ボトランを視察した。

【フィリピン政府の発表(九月三十日)によると】被災者数は百八十八万人、二十一万世帯。一時避難所で生活者は八百八十二カ所



生活を余儀なくされている被災者たち=フィリピン・スービック

きょう岡山で避難民調査報告

A.M.D.A.は、六日午後六時半から岡山市榴津三一〇の一、菅波内科医院で「アジア・ナイト・パーティ」を開き、田中さんの「ピナトゥボ避難民調査報告」を行なった。参加費千八百円。岡パーティーやピナトゥボ被災支援に関する問い合わせは同医院の田中さん(0866267676)へ。

一部のキャンプでは、政府などが井戸を掘り始めた。料理などの燃料にはまきが使われているが、背の低い人が散在しているだけで、長期的に住民が密集するも、その取得さえ難しく

今もテント生活 大切な衛生指導

多くのボランティアが必要

ランズがとれていないのは難しいだろう。【後の課題】医師、薬の充実▽居住地の確保▽下痢、麻疹(はしか)、肺衛生教育の徹底▽など、緊急性はないが、このブでの密集した生活のため、伝染病の問題や住民の労働意欲が低下してしまう面は穴を掘り、竹を編んでふたをした簡単なもの。そ

田中さんは「トイレ作りや今の世話、家族構成といった個々の家族のチェックや衛生指導をするボランティアなど、医師だけではなく多くの人の援助が必要」と訴えている。

で五十二万人のぼろ。しかし、この数字は政府機関によってもデータの

生活が強いられる。間違いがあり、民間団体関係者の発表とも異なる」と田中

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が

一部地域で四百立方の細くや衛生指導をするボランティアなど、医師だけではなく多くの人の援助が必要」と訴えている。

府機関によってもデータの生活が強いられる。間違いがあり、民間団体関係者の発表とも異なる」と田中

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が

府機関によってもデータの生活が強いられる。間違いがあり、民間団体関係者の発表とも異なる」と田中

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が

服装は、男性が短パン、Tシャツ。女性は、Tシャツかブラウスにスカート。子どもと洗濯する習慣が